

(3) 調査概要

① 金沢大学宝町遺跡医学部附属病院地区渡り廊下地点の調査

調査面積 約270 m²

調査期間 2006年5月25日～2006年6月14日

検出遺構 江戸時代～明治時代の溝5条以上、土坑約30、その他近現代遺構

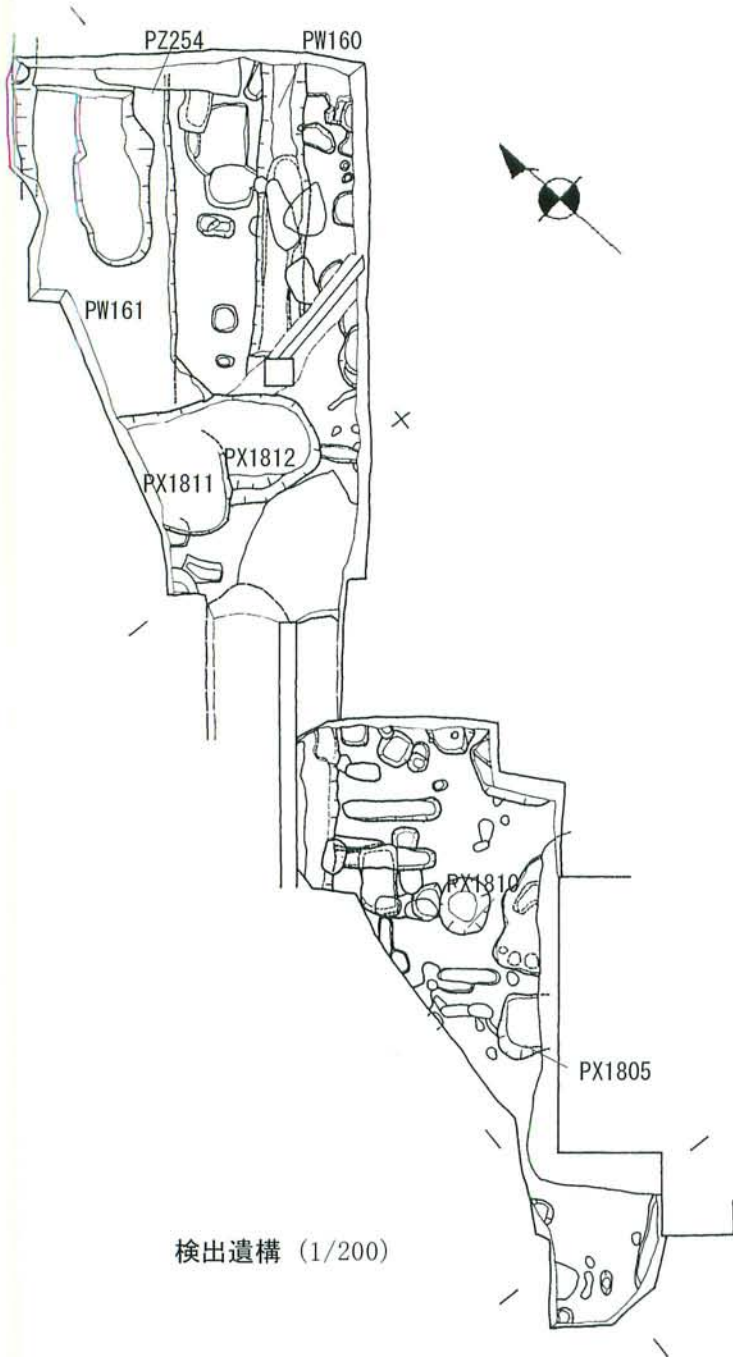
本調査地点は1998年度に発掘調査が実施された医学部附属病院地区病棟Ⅰ・精神科Ⅰ地点(『金沢大学文化財学研究』2、2000年)の東方隣接地である。過去に行われた病院や記念館建物に伴う電気や上下水道管などの敷設工事による攪乱も多いが、地山面までは達していなかった。したがって、江戸時代から近代に及ぶ遺構が多数検出された。

医学部附属病院地区は旧与力町で、江戸時代には与力の屋敷地であった。江戸時代の絵図やその後の地図にあるとおりの道路、溝などから屋敷割りが確認される。今次調査の遺構も、今までの調査で明らかになった与力町屋敷地の延長部と推察され、北東-南西方向の溝PW160・161・162、西南-東北方向の溝PW164など直交した区画を示している。2本の溝PW160と161に挟まれた空間は路面幅約2m強の道路と考えられる。PW160下層から、人面の墨書のある大型の土師質土器が出土している。これは器の底部外面に、大きな目や鼻が特徴的な顔を描いており(巻頭写真参照)、何らかの信仰に関連するものである可能性も考えられる。

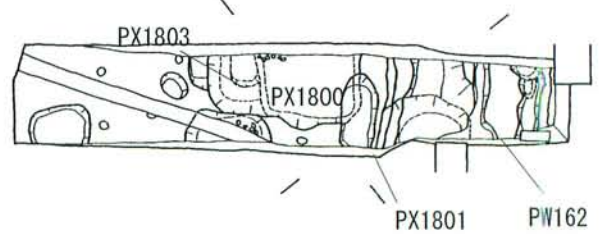
発掘区北端では、多数の病院賄用食器や医療用磁器、ガラス製のビール瓶や薬瓶、ヤカンや瑠璃の洗面器などが詰まった昭和期と推される大きな土坑PZ254が検出された。



北側壁の土坑PZ254断面(大量の遺物が見える)



溝PW160出土 人面墨書土器



溝PW160 (南西から)



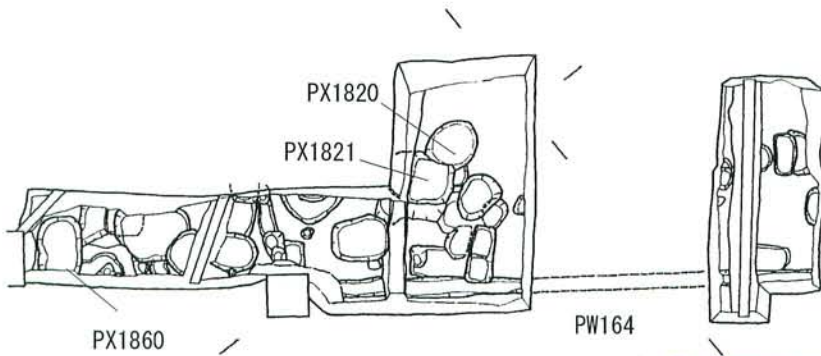
南西部検出状態 (南西から)



東南部検出状態 (南東から)



北東部検出状態 (南西から)



発掘調査状況

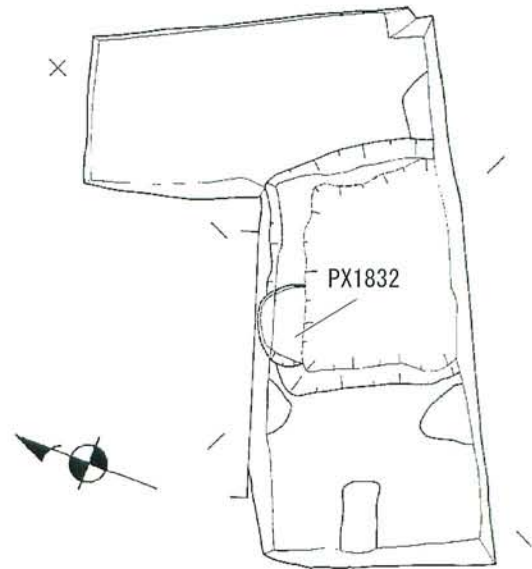
② 金沢大学宝町遺跡医学部附属病院地区外来診療棟地点の調査

調査面積 約96 m²

調査期間 2006年6月19日～2006年6月22日

検出遺構 江戸時代～明治の土坑1

本調査地点は1998年度に実施された医学部附属病院地区中央設備室地点（『金沢大学文化財学研究』2. 2000年）の西方隣接地である。調査の結果、病院施設工事に伴う攪乱のため地山面も掘削されており、遺構の残存状況はきわめて悪かった。上部が削平されて円形プランの一部をとどめる土坑1基PX1832のみを検出した。



検出遺構（1/200）



調査地全景（東から）



土坑PX1832検出状態（南から）



人面の墨書がある土器底部

金沢大学宝町遺跡医学部附属病院地区渡り廊下地点出土

③ 金沢大学平和町附属学校地区の試掘調査

調査面積 約7㎡

調査期日 2006年5月24日

調査方法 重機による試掘調査

平和町附属学校地点での調査は今回が初めてである。石川県の分布調査で縄文土器の散布が報告されており、校舎改修・増築工事に際し試掘を試みた。

予定地は建物や植栽、庭石、通路があり、調査のできる部分は限られた面積であった。北東側のポンプ小屋と植栽、及び南西通路際の地下に埋設された電気配管をさけて、幅1m×長さ7mのトレンチを北東-南西に設定する。

地表面から80-100cmは、附属学校や附属学校以前の施設による整地層及び攪乱土である。100cm以下150cmまでは旧表土で、150cm以下は地山となる。遺構や遺物は発見されなかった。



南より北を望む



北東-南西トレンチ



トレンチ内の様子



トレンチ内の層序